

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (杉の子特別支援学校 石薬師分校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加をめざし、主体的に取り組む子ども ・自己肯定感や他者を思いやる気持ちを持ち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に情熱をもって取り組み、子どものニーズや障がいの特性に応じた教育活動や地域支援を推進する教員 ・対話・会話を大切にし、同僚と協働でき、組織力の向上をめざす教員 ・防災対策や防災教育、人権感覚あふれる学校づくり等、子どもたちが安心・安全に過ごせる学校づくりを推進していく教員 ・保護者・地域・関係機関と連携し、就学前から卒業後までの一貫した指導・支援を推進していく教員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈児童・生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加に向けて、様々な体験的な学習を経験して、卒業後の生活で必要な力や主体性を育てほしい。 ・一人ひとりが活かされる仲間づくりを推進してほしい。 <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりのニーズに応じた自立と社会参加に向けた教育と進路実現を推進してほしい。 ・安心・安全な学習環境を維持継続してほしい。 <p>〈地域の学校・関係機関〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における特別支援教育の充実・推進に向け、センター的機能を発揮してほしい。 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりのニーズに応じた安心・安全な教育 <p>〈地域の学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を通しての共生共学に対する理解と推進 ・地域の特別支援教育のセンター的機能 <p>〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供や障がい者理解に向けた支援 <p>〈地域社会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動の公開と情報提供 	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指す学校づくりへの理解と協力 <p>〈地域の学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を通しての様々な活動や体験 <p>〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場実習の受け入れ及び就労実現 ・職業授業への情報やノウハウの提供 ・放課後等の利用、卒業後の入所 ・就労や施設利用に関する情報の提供 <p>〈地域社会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会活動への参加や進路先の確保、卒業後の支援 ・本校の教育活動の理解と協力

(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり成長していく子どもたちもいるため、スモールステップで丁寧な指導を心がけ、保護者と連携して取り組んでいってほしい。子どもの成長に合わせて保護者も成長していけるような支援を心がけてほしい。 ・学校生活・家庭生活だけでなく、卒業後の進路先でも子どもが自分に合った機器が活用できるように地域への啓発も行ってほしい。 ・感染症対策や防災教育についても、学校として組織的な取り組みを引き続き行ってほしい。 ・本校・分校間での授業見学等に引き続き取り組み、本校と分校の連携を更に推進して行ってほしい。 ・勤務時間縮減は喫緊の課題だが、会議は議論になると長くなることも理解できる。効率の良い会議の運営を心掛けることで教職員の勤務時間を減して行ってほしい。 ・学校評価アンケートから保護者からの良い評価を受けていることが把握される。今後とも保護者や関係機関と連携して生徒の成長に結びつけて行ってほしい。 				
(4) 現状と課題		<table border="1"> <tr> <td data-bbox="252 560 363 828">教育活動</td> <td data-bbox="363 560 1503 828"> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達・特性・特徴等の実態、現場実習等で把握された課題を基に、一人ひとりに対応した課題及び手だてを設定した上での授業実践・指導・支援を推進する必要がある。また、新学習指導要領の周知と教育課程との整合性の確認・検証をする必要がある。 ・「学びの連続性」を念頭に一貫性のあるキャリア教育の推進を図る必要がある。 ・仲間づくりの推進、命を大切に教育・人権教育の推進を図る必要がある。 ・自立と社会参加をめざす教育の充実に向け、多様な体験的な学習機会を設定し、一人ひとりの課題を設定した系統的・計画的な取り組みを推進する必要がある。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 828 363 1164">学校運営等</td> <td data-bbox="363 828 1503 1164"> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の専門性向上の取り組みを継続するとともに、地域における特別支援教育の推進に向けたセンター的機能の充実を図る必要がある。 ・より实际的で多様な場面設定がなされた防災訓練、危機管理訓練等を実施し、教職員の対応力向上を推進する必要がある。 ・本校・分校、関係機関(鈴鹿病院、石薬師高校等)、保護者との連携や情報共有を図る必要がある。 ・地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する必要がある。 ・業務内容・校内組織の見直しを推進し、総勤務時間の縮減に向けた取り組みを推進していく必要がある。 </td> </tr> </table>	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達・特性・特徴等の実態、現場実習等で把握された課題を基に、一人ひとりに対応した課題及び手だてを設定した上での授業実践・指導・支援を推進する必要がある。また、新学習指導要領の周知と教育課程との整合性の確認・検証をする必要がある。 ・「学びの連続性」を念頭に一貫性のあるキャリア教育の推進を図る必要がある。 ・仲間づくりの推進、命を大切に教育・人権教育の推進を図る必要がある。 ・自立と社会参加をめざす教育の充実に向け、多様な体験的な学習機会を設定し、一人ひとりの課題を設定した系統的・計画的な取り組みを推進する必要がある。 	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の専門性向上の取り組みを継続するとともに、地域における特別支援教育の推進に向けたセンター的機能の充実を図る必要がある。 ・より实际的で多様な場面設定がなされた防災訓練、危機管理訓練等を実施し、教職員の対応力向上を推進する必要がある。 ・本校・分校、関係機関(鈴鹿病院、石薬師高校等)、保護者との連携や情報共有を図る必要がある。 ・地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する必要がある。 ・業務内容・校内組織の見直しを推進し、総勤務時間の縮減に向けた取り組みを推進していく必要がある。
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達・特性・特徴等の実態、現場実習等で把握された課題を基に、一人ひとりに対応した課題及び手だてを設定した上での授業実践・指導・支援を推進する必要がある。また、新学習指導要領の周知と教育課程との整合性の確認・検証をする必要がある。 ・「学びの連続性」を念頭に一貫性のあるキャリア教育の推進を図る必要がある。 ・仲間づくりの推進、命を大切に教育・人権教育の推進を図る必要がある。 ・自立と社会参加をめざす教育の充実に向け、多様な体験的な学習機会を設定し、一人ひとりの課題を設定した系統的・計画的な取り組みを推進する必要がある。 					
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の専門性向上の取り組みを継続するとともに、地域における特別支援教育の推進に向けたセンター的機能の充実を図る必要がある。 ・より实际的で多様な場面設定がなされた防災訓練、危機管理訓練等を実施し、教職員の対応力向上を推進する必要がある。 ・本校・分校、関係機関(鈴鹿病院、石薬師高校等)、保護者との連携や情報共有を図る必要がある。 ・地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する必要がある。 ・業務内容・校内組織の見直しを推進し、総勤務時間の縮減に向けた取り組みを推進していく必要がある。 					

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに対応した課題及び手だてを設定した上での授業実践・指導・支援を推進する。また、新学習指導要領と教育課程との整合性の確認・検証を実施する。 ・「学びの連続性」を念頭に一貫性のあるキャリア教育を推進する。 ・仲間づくりの推進、命を大切に教育・人権教育を推進する。 ・自立と社会参加をめざす教育の充実に向け、多様な体験的な学習に系統的・計画的に取り組む。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の専門性の向上、地域における特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。 ・より实际的で多様な場面設定がなされた防災訓練、危機管理訓練等を実施し、教職員の対応力向上を図る。 ・本校・分校、関係機関(鈴鹿病院、石薬師高校等)、保護者との連携・信頼関係の強化を図る。 ・地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する。 ・業務内容・校内組織の見直しを推進し、総勤務時間の縮減に向けた取り組みを推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>○個の課題に応じた指導の充実・教育課程編成</p>	<p>(1)生徒の実態や現場実習等で明らかになった課題を教員間で共有し、一貫した実践を行えるよう、学部会や学年会の定期的な開催に加え、学年担任と職業班担当との連携を一層充実させるべく、情報交換を行う機会を設ける。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上の機会を設ける。 <p>(2)教育課程検討委員会において、新学習指導要領に対応した教育課程編成の検討を重ね、職員への周知を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上検討の機会を設ける。 <p>(3)新学習指導要領の実施に向け、その内容に則って、教育内容の見直しや検討を行い、個別の指導計画における成績記入のカテゴリーの見直しを行っていく。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討委員会を受け、教務部会を中心に、学期に1回協議の場を設けていく。 	<p>(1)学部会、学年会、朝の打ち合わせ等で情報共有の時間を設けた。必要に応じて臨時学年会も行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回以上実施。 <p>(2)教育課程検討委員会と併せて全体で教育課程検討につながる学習会を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習会と併せて年3回実施。 <p>(3)毎月の教務部会に加えマネジメント委員会とも連携し、全体の意識を高めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上実施した。 	
<p>○キャリア教育の充実</p>	<p>(1)キャリア教育プログラムを活用し、個別の指導計画や教育支援計画に反映させた指導案を作成して授業実践を行い、教職員の資質向上に向けて授業改善を行う。また、キャリア教育プログラムを活用した実践を行っていくことを保護者に周知し、連携をはかる。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の活用に関する学部研修を年間10回、授業改善のための研修会を年間2回行う。 ・保護者への説明を年間1回以上行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育プログラムの「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」への反映100%。 ・キャリア教育プログラムを活用した指導案の作成70%。 	<p>(1)すべての職業班でキャリア教育プログラムを活用した指導案を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部研修を年間10回、授業改善のための研修会を年間2回実施した。 ・保護者への説明はPTA総会時に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・100%反映した。 ・職業コース・班の指導案については100%。その他の教科等については今後の課題である。 	

<p>○仲間づくり・人権教育の推進</p>	<p>(1)授業、学校活動全般を通じて日常的に人権教育を行うことで、生徒同士の仲間づくりを円滑にする。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラス、学期に1回以上の取組を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の活動を記録する。 <p>(2)仲間づくりの更なる推進を目指し、石薬師高校との交流を行い、同世代の他校生との交友を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会、文化祭の他、放課後交流を1回以上行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石薬師高校職員、参加生徒にアンケートを実施し、満足度75%。 <p>(3)人権教育や命を大切にす教育の推進に向けた研修を行い、教員の意識を高め、日々の教育活動に生かす。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上の実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加職員からアンケートを実施し、満足度75%以上。 	<p>(1)「特別活動」や「総合的な学習の時間」等を通じて、すべてのクラスで仲間づくりを中心とした人権教育を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年やクラスで毎学期1回以上実施した。 ・人権・交流部が推進し、各クラスで活動の記録を表に書き込んだ。 <p>(2)運動会・文化祭の他、授業交流も様々な機会を作って行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上交流の機会が持てた。 ・石薬師高校参加者のアンケート結果は、満足度100%であった。 <p>(3)「貧困問題」「いじめ問題」について教員研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2回実施した。 ・アンケート結果はほとんどの教員が「満足」であり、100%を達成した。
<p>○体験的な学習の充実</p>	<p>(1)進路担当と各担任団との連携を密にし、生徒の実態・特性に応じた現場を選択し、実習を重ねていく。また事前事後の変化や意欲の向上、適性等を共有し、保護者・本人の希望に基づいた進路決定につなげていく。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季教職員進路見学会を2回実施。 	<p>(1)3年生の進路決定までには、予想外の展開もあったが、担任や関係機関との連携のもと、即時対応し、本人・保護者の安心感と気力を損なわずによりよい方向へ進むことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季教職員進路見学会を年間2回実施した。

改善課題

「個の課題に応じた指導・教育課程の編成」や「体験的な学習」、「キャリア教育」の充実に向けては、今年度新たに「連携ツール」を作成し、「校内・現場実習」の評価や課題を「進路学年会」で共有して平素の授業に生かしていくシステムを構築し、試行を行ってきた。次年度は、システムを定着させていくとともに、そのサイクルの中で生徒に必要な学習内容を洗い出し、新たな教育課程の編成を目指していく。

「仲間づくり・人権教育の推進」については、クラス・学年のみならず、生徒会が主体となって「ピンクシャツの取組」を行った他、石薬師高校との交流授業に加え、亀山高校や西日野にじ学園との新たなスタイルでの交流授業を主体的に進める職業班もあった。今後、一層様々な授業場面での交流および共同学習の在り方を検討し、活動の幅を広げていきたい。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>○専門性向上・センター的機能の充実</p>	<p>(1) 地域への発信の充実を図るため、地域の小中学校や関係機関等を対象に分校一日体験研修、夏季研修講座、学校見学会を開催する。体験研修に関しては、今年度より地域の通級指導担当にも案内を送付する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分校一日体験研修は2回実施。 ・夏季研修講座は本校と連携し1回以上実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会ではアンケートを実施し満足度90%以上。 	<p>(1) 幅広く案内の送付を行い、様々な立場の方に参加いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分校一日体験研修を年間2回実施した。 ・夏季研修講座は本校と共催で1回実施した。 ・参加者へのアンケート結果は満足度90%であった。 	
<p>○危機管理体制の強化</p>	<p>(1) 通学途上の生徒の安全確保に向け、下校時所在確認一覧表を作成する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分校防災委員会を2回開催し、作成にあたる。 <p>(2) 多様な場面設定での災害対応力の強化に向け、下校時災害対応訓練を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回実施。 <p>(3) 「日常の取組と事故予防」、「緊急時対応」等に関する教職員への研修会を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上実施。 <p>(4) 危機管理に関するマニュアルの見直しについて検討する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上実施。 	<p>(1) 一覧表の作成には至らなかったが、JRや路線バス通学生の時間帯について概ね把握した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回実施した。 <p>(2) 下校時災害対応としてスクールバスからの引き渡し訓練を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回実施。 <p>(3) 「エピペン(アレルギー対応)」「心肺蘇生法」「防災」について職員研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回実施した。 <p>(4) 各担当分掌で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回以上検討した。 	

<p>○関係機関・保護者等との連携・信頼関係の強化</p>	<p><本校との連携></p> <p>(1) 本校中学部生徒が高等部入学に進学した場合の円滑な引継ぎを行うため、教員対象の中学部見学を実施するとともに、本校中学部の生徒が進路先の一つである分校の授業を体験・見学する機会を設ける。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 学期、3 学期に各 1 回ずつ実施。 <p>(2) 進路だよりのやりとりや、進路資源に関する情報共有、見学会企画に関する報告等を通じて、系統的な進路指導を目指す。</p> <p>(3) 共通する業務を行う分掌間や教頭間での連絡を密にし、学校全体としての組織力を高める。</p> <p><石薬師高校との連携></p> <p>(1) 石薬師高校と定期的な打ち合わせを実施し、情報を共有することにより、信頼関係・連携の強化を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 打ち合わせ会を週 1 回実施。 <p><保護者との連携></p> <p>(1) 「進路だより」や、年度当初に改定した「進路資源リスト」を発行するとともに進路見学や進路説明会を実施し、系統的な進路学習や進路決定の流れについての理解を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な「進路だより」の発行。 ・ 改訂版「資源リスト」の 6 月配布。 ・ 「卒業生の話を聞く会」の実施。 	<p><本校との連携></p> <p>(1) 本校生徒の分校授業体験、分校教員による本校見学期間をそれぞれ年間2回設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各1回ずつ実施した。 <p>(2) 進路だよりは本校・分校共通して発行し、進路資源についての情報も共有できるようにした。</p> <p>(3) 総務部担当の「スクールバス」「防災」「儀式的行事」、指導部担当の「給食」に関してそれぞれ連絡を密にして業務に当たった。また教頭間においても、逐次電話にて情報共有を行った。</p> <p><石薬師高校との連携></p> <p>(1) 毎週金曜日の朝実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 週1回実施した。 <p><保護者との連携></p> <p>(1) 掲げた計画通りに全て実施し、理解の促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期発行に加え、臨時発行等も行った。 ・ 配布後の新設施設についてもページ追加をした。 ・ 年間1回実施した。 	
-------------------------------	--	--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生を対象に「進路見学」2回、「実習説明会」2回実施。 ・2年生を対象に、「就労アセスメント説明会」1回、「実習説明会」1回実施。 ・3年生を対象に「進路個別懇談会」「移行支援会議」実施。 <p><関係機関との連携></p> <p>(1) 県キャリア教育サポーターとの連携を密にし、企業に関する最新の情報収集に努めるとともに、現場実習や就労アセスメントについて、各関係機関との間で事前事後の報告を適切に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各2回ずつ実施した。 ・各1回ずつ実施した。 ・各期間を設けて全員について実施した。 <p><関係機関との連携></p> <p>(1) 定期的に県キャリア教育サポーターと打ち合わせを行った。各関係機関へは連絡を密に行った。</p>	
<p>○地域との連携強化</p>	<p>(1) 学校ホームページの活用と充実を図り、地域に向けて学校生活の様子を発信していく。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを毎月更新する。 	<p>(1) 更新が遅れ気味になったことに加え、外部からリンクがわかりにくいという意見があり、次年度の改善を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新はしたが遅れ気味であった。 	
<p>○働きやすい職場環境づくり</p>	<p>(1) 総勤務時間の縮減に向けて、定時退校日の確実な実施に向け、全職員で意見を出し合い、実施方法の見直しを行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上の定時退校を実施する。 ・取り組みを2か月に1回程度学校企画委員会・マネジメント委員会で定期的にチェックして管理する。 ・オフサイトミーティング等、職場の意見を出し合う場を設定する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日及びノー会議デーの実施率85%以上。 ・休暇取得日数を前年度比で1日増。 	<p>(1) 全員実施に向け、年度途中から振替日の設定を可能にした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「定時退校日」は月1回設定した。 ・チェック表を作って管理し推進した。 ・ミーティングは年間3回実施した。 ・ノー会議デーは100%実施した。定時退校日は振替設定できるようにしたが、毎月数名うまく取得できない職員がいた。 ・休暇取日数得前年比一日増は年度末にほぼ達成見込み。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務を前年度比で増時間としない。 ・定例会議の55分以内終了80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務は前年比増時間となっており、達成できなかった。 ・定例会議終了については76%であり、達成できなかった。 	
--	---	---	--

改善課題

「専門性の向上・センター的機能の充実」については、様々な研修を企画して取り組んだが、職員の経験値のばらつきがあり、個々のステージに即した研修の必要性が感じられた。それは保護者の信頼向上にもつながる部分であり、石薬師分校としてのスキルアップに向けて、より充実した方法を検討していかなければならない。センター的機能については、石薬師高校だけではなく、地域の中学校からの支援依頼や講演会の講師依頼なども少しずつ増えてきており、一層幅を広げていく必要がある。

「危機管理体制の強化」については、概ね計画通りに取組を行っているが、毎年少しずつ想定を変えて様々な災害時の体制強化を図っていく。

「関係機関との連携・信頼関係の強化」については、個々の生徒の実態に合わせて各機関との連絡を密にし、協働して必要な支援を行っていくことができた。引き続き、支援の充実に向け、よりよい関係づくりを目指していく。

「地域との連携」については、「石薬師フェスティバル」への参加や、「関ドライブイン」での木工班製品販売など、新たな取組を始めることができた。初めて主体的に報道提供も行い、分校の様子を広く知ってもらう機会を増やすことができた。ホームページの改良とあわせて、一層充実させていきたい部分である。

「働きやすい職場環境づくり」については、今年度は時間外勤務の昨年度比±0時間、会議時間55分以内の目標は未達成となった。主な要因としては①時間外の特別な対応や支援を要する案件が多かったこと、②職員の休暇等に対する補完が必要であったこと、等があげられる。課題解決に向け、会議の見直しと分掌組織の改編、定時退校日設定方法の見直しを行っており、次年度の成果につなげていきたい。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育プログラムを活用した教育実践や授業改善を進めるとともに、新学習指導要領に対応した教育内容の実践や教育課程の編成が必要である。 ・地域に開かれた学校としての取り組みを進めるために、地域への情報発信やマスコミ等を活用した広報についても検討し、また保護者等のニーズに応じた適切な情報発信の内容や量について検討を進める必要がある。 ・働きやすい職場づくりを進めるために、さらに業務の改善や効率化を進め、職員の負担軽減を図ることが求められる。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・杉の子キャリア教育プログラムの視点を軸に、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に加えて新たに「連携ツール」を活用し、「担任⇄授業担当者⇄進路担当」間での情報共有の徹底や、連携の充実を図る。これによって「日常生活⇄授業⇄実習」の関連を見直し、授業改善に努める。 ・新学習指導要領の内容に則り、生徒の障がいの多様化等、石薬師分校の現状に応じた新しい教育課程の編成に取り組んでいく。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域に開かれた学校を目指し、平素から来校しやすい体制の整備を行うとともに地域への情報発信の機会を積極的に設けていく。 ・学校運営組織の再編成を行い、可能な限り業務の平準化を図っていく。併せて、会議の精選や時間内終了の徹底など、業務の合理化や効率化に努める。